

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0373100460		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	グループホーム 満天		
所在地	岩手県九戸郡洋野町中野3-38-189 (電 話) 0194-68-5121		
評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価確定日	

【情報提供票より】(H 19 年 6 月 20 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9.5	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(6 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	— 名	要介護4	— 名
要介護5	— 名	要支援2	— 名
年齢	平均 81.4 歳	最低 53 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	洋野町国民健康保険 種市病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岩手県の北東部に位置する 洋野町の海岸近くに位置し、四季の風情があふれる環境の中にあります。近くに民家があり、同じ法人で経営する老健に隣接しています。大きな菜園を持ち 平均年齢81歳の利用者が皆で草取りをするパワーには脱帽です。暖炉と床暖房で冬もぽかぽか、職員数が10名と多く ゆとりのある接遇で 1人1人を大切にしたい生活を応援しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 感染症対策委員会をH19年4月に立ち上げ食器消毒や室内環境について検討しています。今後この話し合いの内容をグループホーム独自のマニュアルとしてまとめていく予定です。家族会はなくアンケートも未実施ですが、家族が誕生会に出たり お盆などに利用者を外泊させたり 訪問も月に4.5回はみられます。研修計画は作られておらず個人ごとの研修記録もまだ整備されていません。できるところからの改善が望まれます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員個々に自己評価表のチェックをしてもらい、それをホーム長と管理者で取りまとめました。取りまとめた結果を元に職員全員で業務改善について話し合い 今後の事業所運営に役立てていけることを期待いたします。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は未開催です。7月末に第1回目を開催予定です。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族に対して 利用者の生活の様子を写真と共に紹介したり、受診結果や金銭面の報告を定期的に行っています。苦情相談窓口への相談は少ないようです。今後家族アンケートを実施したり家族会を作って意見や苦情を出しやすい雰囲気を作ろうとしているところです。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 保育園のクリスマス会や卒園式、地域の敬老会やお祭りなどに進んで参加しています。傾聴ボランティアや誕生会での踊りのボランティアの訪れもあります。今後は地域の方が気軽にグループホームを訪れてくださるような連携を考えていくことが必要と思われます。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格を尊重するという事を非常に大事に実践していますが、事業所独自の理念はまだ作られていません。	○	今後利用者や職員等で話し合い、独自の理念を作っていくことを期待したいと思います。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	個人の尊厳を大切にするためそれぞれに合わせた介護の工夫がなされており、職員の話し合いも行われていますが、独自の理念が作られていないため 関わり方に個人差があるようです。	○	個を大切にした関わりを行っています。職員がチームとして同じ理念を持って関わることで更に 実践の統一性が期待せきるものと思います。この事業所の特徴となるものは何か、皆で何をを目指すのかを日々話し合いまとめていって欲しいと思います。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園のクリスマス会や卒園式、地域の敬老会やお祭りなどに進んで参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員個々に自己評価表のチェックをしてもらい、それをホーム長と管理者が取りまとめています。昨年の12月に外部評価を受けた際に指摘された内容で改善されていないものがあります。	○	自己評価の取りまとめ結果や外部評価の結果について全員で話し合い、業務改善に取り組まれることを期待したいと思います。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催されていません。7月末に開催予定です。	○	地域の方々にグループホームや認知症について知っていただくと共に、外部評価の改善経過のモニター役として機能できるような運営の工夫が望まれます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携の仕方について悩まれているようです。	○	ケア会議で利用者状況を発信したり、保健師や民生委員、町の介護保険担当者との情報交換を積極的に進め、利用者の苦情の吸い上げにも努力を期待したいと思います。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活の様子を写真とともに家族に紹介したり、受診結果や金銭面の報告を定期的に行っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けていますが、あまり活用されていません。	○	今後家族アンケートの実施を予定しています。家族の方の来所も多いので家族会を作って意見や苦情を出しやすい雰囲気を作っていくことが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2名の退職者の補充はありましたが、開所(H17.4)以来メンバーの変更はなく馴染みの関係が大事にされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数が多く配置されており、研修に出やすい環境となっています。経験の浅い職員を隣接の老健に介護技術の研修に出しています。運営者は職員に対し資格取得にも積極的に取り組ませたいと考えています。	○	研修計画がなく、目的意識的に職員を育てていくための具体化に課題があるように思われます。個々の職員の研修記録の整備もなされておきませんので今後の取り組みに期待したいと思います。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの定例会等に参加し情報交換や連携を図っています。	○	気軽に意見交換をできる場として近隣のグループホームとネットワークを作る事を計画中です。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学の機会を持ったり、職員が自宅に訪問しています。	○	見学や体験利用の回数を多くして、更に利用者や家族が安心できるような関わりを期待します。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で1人1人の利用者が尊重されています。食事の準備や後片付け、畑の草取りや収穫など役割を果たす場が確保されています。	○	利用者を尊重し利用者の想いに沿って、現在持っている力を引き出し活躍の場を広げたいとの職員の姿勢が強く感じられます。今後も引き続き努力されることを期待いたします。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動の理由をさぐり、どうすることが本人にとって望ましいのかを職員で話し合い、色々と試行しています。	○	事業所では 今後も利用者との信頼関係を培いながら的確なアセスメントと職員一丸となったアプローチにより利用者を理解していきたいと考えています。この姿勢を堅持されることを望みます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいた独自性のある介護計画が作られています。運動不足の利用者には自転車こぎを、鏡に話しかける利用者には鏡にカーテンをつけるなど、きめ細かいケアがなされています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、また必要に応じて介護計画の見直しが行われています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望する理容店や病院が利用できるように馴染みの職員が付き添っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態を把握しているかかりつけ医の受診を支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたケアを行いたいと考えていますが、職員との具体的な話し合いがなされていません。併設の老健の看護師が定期的に病状の把握に訪れています。	○	本人・家族のターミナルへの意向確認と共に、職員全体で何ができて何ができないのか、そのためにどうしていくのかといった話し合いが必要と思われます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを保ち尊厳を維持することが利用者の権利であることが契約書に記入されています。職員は利用者の声がけに注意を払い、記録等の書類は目につかないところに保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員数にゆとりがあり、1人1人に対応したケアを行っています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作った野菜を収穫して調理したり、調理や片付けなどを楽しそうに行っている利用者の姿が見られます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい時間に入浴したり、介助の希望を取り入れて職員を配置したりと、楽しく入浴できるように工夫されています。入浴したくない利用者へのタイミングの良い誘いと実施に努力しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取りの好きな利用者は毎日草取りができるように、また掃除や洗濯など各自のできるところを役割としてお願いしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、受診や理美容店の利用など個々の希望にそった外出の支援がなされています。ホーム前の畑は広さもあり 毎日のように多くの利用者が草取りや収穫にいそしんでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけられていません。外出の察知は職員が行っており、受診や買い物で職員が手薄になる時は非常勤の職員を増やし見守りを行っています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の老健と合同で夜間火災を想定しての避難訓練を行いました。消防や地元の消防団を招いての訓練であり、避難経路や避難の後の利用者の把握方法について助言をいただいています。グループホーム独自の訓練もその後実施しました。	○	避難物品の準備はこれからの準備となっています。次回は地震を想定した避難訓練を予定しています。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては栄養士にチェックしてもらっています。食事量についても職員が把握しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者が思いのままにくつろいで過ごすことのできる場所がたくさんあり、暖炉や季節の花、手作りの作品など温かみを感じることができるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたたんすや、こたつなどが居室に置かれ、家族等の写真も多く飾られています。		